

I LOVE 廿枝 ～私たちの手で守る～

わたしたちは、今までに大きな地震を経験したことはありません。しかし、この一年間、総合的な学習の時間に、近年起こるであろう南海地震を想定した防災教育について学習してきました。そこで、私たちが行った活動をたくさんの方に伝えたいと思っています。



徳島県阿南市立新野東小学校 6年
2006. 1 作成

新野東小学校区のまち紹介

新野町は四方を山に囲まれた盆地にある。そのため、地震発生時に津波の影響はないと推測される。その理由として、町史をひもといても、その昔「一升が森」という山のおかげで一升桶ほどの水しか峠を越えてこなかったと記されている。そのため地震＝火災へつながると考えている。

わが家は大丈夫？ Before After

大きな揺れがおきたら、寝室ではどのようなことが起きるでしょう。寝室マップを作り、比べてみました。



- ・棚に積んである物を少なく
- ・タンスなどを動かないように固定
- ・ストッパーをつける
(タンスと天井をつなぐ)
- ・低い所に物を置く
- ・寝る位置を変えて、逃げられるように



私たちの責任 自分の命は自分で守る

地震はいつどこで起こるか分からないにしても、睡眠中はとっさの対応ができない。ふだんから寝室内でどのようなことが起きるかをしっかり考えましょう。

隣町、由岐町を訪問



由岐町では、津波に備えて、行政とともに自主防災組織が整備されていました。津波避難場所や備蓄防災倉庫など、自分たちの力でやろうとしています。地域住民と行政ががんばっていました。私たちも近くの町と助け合っていくことの大切さを学びました。

地震避難訓練——泊シミュレーション

かまどづくり



ゴミ置き場に捨ててあった物（高跳びの台の底や鉄板）を見つけてコンロ代わりにしました。



かまど完成！

竹の飯ごうづくり

竹は固くてなかなか切れませんでした。竹の節と節を上手に残せるようにしました。

そして、なたを3分の1ぐらいに構え、差し込み割りました。なかなか考えました。“パン”と竹の中の空気がぬける音がしたら手で一気に割れます。



私たち家族は阪神大震災を大阪で体験しました。（中略）消防署の方のお話にもあったように、助けを待つだけではダメだということ、自分の身は自分で守る認識と知識が重要だと確信しました。（中略）子どもたちは貴重な体験をさせていただきありがたく思っています。その時に役立つかもしれませんが、母はどうか大地震が来ませんように願うばかりです。（保護者の感想より）

ごはんづくり



炊けたぞ～

火を起こすのにけっこう苦勞しました。火加減は大丈夫か、米が焦げないか、竹が割れて米が落ちないか心配でした。



体育館での夜

寒さを防ぐために、カーテンを閉め、体育館にあるマットや防寒シートを敷きました。上着・くつしたものはいています。寝袋を持っている人もいました。懐中電灯は側に置いておきます。

おながが空いて眠れませんでした。朝方は急に冷えて、より寒くなりました。



体育館の夜は寒いです